

奥州市誕生



大きな和で輪を

平成18年2月20日(月)――
朝から大変な好天に恵まれ、新生奥州市の門出に大きな花を添えてもらいました。前夜から、何かと思いをめぐらし、眠れませんでした。

当日は、午前7時から職員1459人への辞令交付書類決裁から始まりました。引き続き、各委員の皆さんへの辞令交付。その後、奥州市役所玄関前で岩手県知事代理の水沢地方振興局長さん、国會議員秘書さん、県議會議員の先生方、たくさんの方の皆さんを迎え、開庁式を行いました。常盤小学校のマーチングバンドの皆さんのファンファーレで市旗の掲揚、児童の皆さんのくす玉割りと一緒に来賓の皆さんでの開庁テープカットができました。

式では「奥州市は1つ。5本の指、いわゆる5指はどれも大事なものを」を強調し、「まんにゃしえんにええのは、まんにゃしえんべ(間に合わせられるものは間に合わせましょう)」の思いを心しながら、職員はもちろん、13万市民の皆さんも奥州市の大幅計に針を合わせて、合併協議での事項を1日も早く達成するよう頑張りました」とお願いしました。講堂での職員訓示では「何でも初めが肝心。奥州市政は、われわれも含めた13万市民のためのもの。奥州市には限らない発展の資源・材料がある。それらを生かすための知恵と汗を惜しみなく貸してほしい」などのお願いをしました。

開庁式で衣川区のお母さんたちから頂いた花束とその温かい気持ちを抱いて、一気に駆け抜けた1日でしたが、分刻みのスケジュールも順調に出帆できたと安堵し、帰宅いたしました。

新生奥州市民の皆さん、大きな和で輪をつくり頑張りました。

奥州市長職務執行者
佐々木秀康



■奥州市章のデザイン趣旨

奥州市の「奥のO」と「州のS」の外郭に、中心に「米」を納めて「奥」の字を簡略化しています。奥州市を流れる北上川とその澄んだ空を青で、主要産業である農林業を緑で表し、夢のある未来に向かって向上発展する市勢・市民の姿を単純明快にシンボライズしています。